広報ながくて
City Public Relations Magazine
No.666 Sep.2018

# いっぺいといっぷく Vol.60

市長は長久手をどんなまちにしたくて、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。
みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【にょぜがもん】もぜひご覧ください。
[ 市HPのトップページから「にょぜがもん」をクリック。]

## お祭り

市内の各所で行われているお祭りに、できる限りごあいさつに伺いました。今年はとても暑い夏でしたが、皆さんの熱気はそれ以上で、どこのお祭りもとても盛り上がっていました。過疎化や高齢化により、地方のお祭りの存続が危ぶまれているといった話も聞きますが、本市においては若者や子どもの参加が多く見受けられ、どこのお祭りも大にぎわいでした。

こうしたことを市の職員と話していたところ、その職員は結婚を機に引っ越しをして以来、10年以上お祭りに参加していなかったそうですが、最近になってお祭りに参加するようになったとのことでした。お祭りに参加するようになったきっかけを聞いたところ、「自治会の役員が順番で回ってきたため、渋々引き受けて清掃活動やお祭りの準備など参加した。それまでは地域への愛着のようなものを感じていなかったが、知り合いができたことで地域の一員になったように感じて、お祭りにも参加するようになった」とのことでした。

私が職員の話を聞いて、改めて感じたのは、まちを作りあげるのは、条例でも道路でも施設でもなく、人とひとのつながりだということでした。これからの最も重要な課題は、人口減少です。本市でもいずれ人口減少が始まると、税収も労働人口も減ってしまうため、市役所の行う行政サービスも今までどおり行うことができなくなります。そんな時代には、市民の力で地域を支えるしかない、といつもお話しているのですが、そんな市民同士の支え合いも、近所づきあいも何もない状況では成り立ちません。職員が地域の活動に参加したことにより、知り合いができて地元に愛着を持つようになったように、市民同士であいさつし、関わり合って知り合いを増やし、「あの人は今、どうしているのだろう?」と気にかけることが、まちづくりの本質なのだと思います。

昔は、田植や家づくりといった一人では大変なことは、皆で協力して作業を行いました。協力し合わないと生活ができなかったのです。そこで、お互い助け合えるよう地域の結束を強めるため、お祭りが開催され、皆で騒ぎ楽しむことで、生きていくために必要な人とひとの絆(きずな)を作り上げていったのです。これから人口が減少していくと、また一人では生きられない時代となり、皆で協力し合うための絆が改めて必要となることでしょう。

皆さんもぜひ、お祭りなどの地域の行事に参加していただき、周りの人とあいさつし、声を掛け合えるつながりを作って、地元への愛着を深めていただきたいと思います。そしてお互いのことを気にかけ、考えることがまちづくりの原点で、最初の一歩なのだと思います。

ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

**長久手市地域見守り安心ほっとライン　0561-63-5556　24時間365日受付**

## まちの話題

西日本豪雨被災地支援のため、派遣職員に選ばれた安心安全課の森田主事の壮行会を8月3日に行いました。森田主事は「現地の空気感をしっかりと感じ取り、今後に活かしたい」と抱負を語りました。派遣期間は8月4日(土)から8月8日(水)でした。

スマートフォンで広報ながくてを持ち歩こう!
App Store
Google Play
「マチイロ」で検索
▶ダウンロード

この広報紙の無断転載を禁じます。視覚障がい者のみなさんにも家族から読んであげてください。

VEGETABLE OIL INK この広報紙は、植物油インキを使用しています。
この広報紙は、水なし印刷です。

発行／愛知県長久手市　編集／市長公室情報課　TEL／(0561) 63-1111　FAX／(0561) 63-2100　〒480-1196 愛知県長久手市岩作城の内60番地1　ホームページ http://www.city.nagakute.lg.jp